

関東大震災の記録

関東大震災 100 年から考える「災害と平和」展 令和 5 年 (2023 年) 9 月 平和資料館 展示内容より

関東大震災から 100 年、改めて震災の被害を振り返る

関東大震災の被災状況

今から 100 年前の 1923 (大正 12) 年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、関東で大きな地震が発生しました。震源地は相模湾で、推定マグニチュードは 7.9。神奈川県・千葉県・東京都・埼玉県・山梨県では震度 6 が観測され、近代化以来の首都圏で唯一の大地震ともいわれています。潰れたり・焼けてしまったり・または流されたり・埋もれたりする住家は約 37 万棟、死者と行方不明者は約 10 万 5 千人とされています。

死因の 1 割は建物倒壊で、神奈川県などでは土砂や津波による被害もありました。火災による死亡が 9 割と一番多く、地震発生当時、東京市や横浜市など市中の人々はちょうど昼食の準備で火を使っていたため、火災の被害が拡大し、9 月 3 日の朝まで続いたとされています。広い範囲で交通機関、上水道、電力、通信、橋梁など社会資本の機能が喪失し、人々の生活を脅かしました。

府 県	住家被害棟数							死者数(行方不明者含む)				
	全潰	(うち)非焼失	半潰	(うち)非焼失	焼失	流失埋没	合 計	住家全潰	火災	流失埋没	工場等の被害	合 計
神奈川県	63577	46621	54035	43047	35412	497	125577	5795	25201	836	1006	32838
東京府	24469	11842	29525	17231	176505	2	205580	3546	66521	6	314	70387
千葉県	13767	13444	6093	6030	431	71	19976	1255	59	0	32	1346
埼玉県	4759	4759	4086	4086	0	0	8845	315	0	0	28	343
山梨県	577	577	2225	2225	0	0	2802	20	0	0	2	22
静岡県	2383	2309	6370	6214	5	731	9259	150	0	171	123	444
茨城県	141	141	342	342	0	0	483	5	0	0	0	5
長野県	13	13	75	75	0	0	88	0	0	0	0	0
栃木県	3	3	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0
群馬県	24	24	21	21	0	0	45	0	0	0	0	0
合 計	109713	79733	102773	79272	212353	1301	372659	11086	91781	1013	1505	105385
(うち)												
東京市	12192	1458	11122	1253	166191	0	168902	2758	65902	0	0	68660
横浜市	15537	5332	12542	4380	25324	0	35036	1977	24646	0	0	26623

内閣府 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書【第 2 編】」(2008 年) P2 より



地震発生直後の日本橋室町 (東京都復興記念館所蔵)



黒煙の中の日比谷交差点 (東京都復興記念館所蔵)

平和の視点から見た災害

災害時に起こりうる「平和ではない状態」とは？

災害時・非常時には資源も時間も緊迫
社会全体、人々の不安な気持ち



- ・ 平常時であれば配慮される多様な視点が、非常時には考慮されなくなることもある
- ・ 積極的に是正されるべき制度上の不平等や偏見が放置されることもある
- ・ 理解や配慮に欠ける状況を、非常時だから「仕方がない」と見過ごされ、容認されてしまうこともある

一部の人がほかの人より被害を受けやすいことは、「平和ではない状態」の一種と言えます。

非常時においてこそ、助け合いの気持ちを持つこと、多様に配慮した対応をすること、文化的に多様性を受け入れる環境づくりをしていくことが、被災時の不平等を減らすことができ、「平和」な状態へと回復していく下支えになります。

関東大震災時の流言蜚語（デマ）と殺傷事件

関東大震災時に起きた、人為的な「平和ではない状態」として、流言による殺傷事件があります。

内閣府 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書【第2編】」（2008年）（以下、「報告書」という。）には、「自然災害がこれほどの規模で人為的な殺傷行為を誘発した例は日本の災害史上、他に確認できず、大規模災害時に発生した最悪の事態として、今後の防災活動においても念頭に置く必要がある。」とあります。

流言による殺傷事件

地震直後の混乱のなかで、「朝鮮人が暴動する」などの流言が発生し、広範囲に流布しました。それを聞いたり伝えたりした各地域の人々が自警団を組織し、また官憲自身も、朝鮮人や中国人、社会主義者、そして朝鮮人と誤認された日本人を殺害・攻撃する事件が多数ありました。

表4-8 官庁記録による殺傷事件被害死者数

種別	司法省報告書掲載					戒厳業務詳報掲載			合計
	起訴事件			警察による	軍通牒の不明	軍隊による		警察・民間人共同	
被害者	朝鮮人	日本人	中国人	日本人	朝鮮人	朝鮮人	日本人	朝鮮人	
東京	39	25	1	2		27	19	約215	約328
神奈川	2	4	2						8
千葉	74	20			1	12	8		115
埼玉	94	1							95
群馬	18	4							22
栃木	6	2							8
茨城		1							1
福島		1							1
合計	233	58	3	2	1	39	27	約215	約578

注：戒厳業務詳報掲載の警察民間人共同の被害者のうち約200は中国人との説あり

（報告書 P206 より）

表4-1 警視庁編『大正大震災火災誌』が記載する流言の事例

1日	<p>13時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士山に大爆発、今なお噴火中。 東京湾に猛烈な海嘯襲来する。 更に大地震が来襲する。 <p>15時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会主義者と朝鮮人の放火多し。
2日	<p>10時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 「不逞鮮人」の来襲あるべし。 昨夜の火災は「不逞鮮人」の放火または爆弾の投擲。 朝鮮人中の暴徒が某神社に潜伏。 大本教徒密謀を企て数千名が上京の途上。 <p>14時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 市ヶ谷刑務所の解放囚人が郡部に潜伏、夜に放火の企て。 朝鮮人約200名神奈川で殺傷、略奪、放火。東京方面に襲来する。 朝鮮人約3000名多摩川を涉って来襲、住民と闘争中。 横浜の大火は朝鮮人の放火。略奪、婦女暴行、焼殺。青年団や在郷軍人団が警察と協力して防止。 横浜方面より朝鮮人数十名ないし数百名、上京の途上。 横浜方面より襲来の朝鮮人約2000名、銃砲刀剣を携帯し、すでに六郷の鉄橋を渡る。 軍隊は六郷河畔に機関銃を備え、朝鮮人の上京を遮断せんとし、在郷軍人や青年団が応援。 六郷河畔で軍隊に阻止された朝鮮人は、転じて矢口方面に向かった。 <p>15時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑司が谷の〇〇〇〇は向原〇〇〇〇方へ放火しようとし、現場で民衆により逮捕された。 <p>16時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 大塚火薬庫襲撃目的の朝鮮人、いままにその付近に密集せんとする。 朝鮮人原町田に来襲し、青年団と闘争中。 原町田来襲の朝鮮人200名は、相原片倉村を侵し、農家を掠め婦女殺害。 朝鮮人2-300名横浜方面より溝の口に入って放火、多摩川二子の渡しを越え、多摩河原に進撃中。 朝鮮人目黒火薬庫を襲う。 朝鮮人鶴見方面で婦女を殺害。 <p>17時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人110余名寺島署管内四ツ木橋付近に集まり、海嘯来ると連呼しつつ凶器で暴行、あるいは放火する者あり。 戸塚方面より多数民衆に追跡された朝鮮人某は、大塚電車終点付近の井戸に毒薬を投入。 <p>18時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人予てより暴動の計画ありしが、震災の突発で予定を変更、用意の爆弾および劇薬物を流用し、帝都全滅を期す。井戸水を飲み、菓子を食べるは危険。 上野精養軒前の井戸水の変色は毒薬のため。上野公園下の井戸水にも異状。博物館の池水も変色して金魚全滅。 上野広小路松坂屋に爆弾2個を投じた朝鮮人2名を逮捕したが、その所持の2枚の紙幣は社会主義者より得たものだった。 上野駅の焼失は朝鮮人2名がビール瓶に容れた石油を注いで放火した結果。 朝鮮人約200名、品川署管内仙台坂に襲来し、白刃をかざして掠奪を行い、自警団と闘争中。 朝鮮人約200名、中野署管内雑色方面より代々木に進撃中。 代々木上原方面において朝鮮人約60名が暴動。 <p>19時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人数百名、亀戸署管内にちん入し暴行中。 朝鮮人40名、八王子管内七生村より大和田橋に来襲、青年団と闘争中で銃声きりに聞こえる。
3日	<p>01時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人約200名、本所向島方面より大日本紡績株式会社および墨田駅を襲撃。 <p>04時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人数百名、本郷湯島方面より上野公園に来襲するので、谷中方面に避難せよ。荷物などは持ち去る必要なく、後日富豪より分配する。 <p>10時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵士約30名、朝鮮人暴動鎮圧のため月島に赴いた。
4日	<p>15時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人、警察署より解放されたならば、速やかにこれを捕らえて殺戮すべし。 <p>18時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮人、市内の井戸に毒薬を投入。 <p>21時頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 青年団員が取り押さえて警察署に同行した朝鮮人は、即時釈放された。 上野公園および焼け残り地域内には、警察官に変装した朝鮮人がいるので注意すべし。

注：語句全部のそのままの引用ではなく、内容を損ねない程度に略記している。

(報告書 P182 より)

世田谷区域内での殺傷事件

千歳村烏山で起きた事件（殺人並傷害）

9月2日午後2時頃、東京・横浜方面の火災は、主として不逞(ふてい)鮮人の放火に因れりとの流言行われしが、その5時頃に至りて、東京において暴行せる鮮人数百名は、更に郡部を焼き払う目的を以て各所に放火し、将(まさ)に管内に来らんとすと称し、民衆の恐怖と憤激とは高潮に達し、老・幼・婦女子は難を山林に避け、青年団・在郷軍人団・消防組員等は、各自、戎(じゅう)・凶器を携えて警戒の任に当たり、通行人の検問、極めて峻烈(しゅんれつ)なり。

かくて、その夜に及び、西府村中河原土工請負業者が、京王電鉄笹塚車庫修理のため、鮮人土工18名と共に自動車を駆りて甲州街道より東京方面に向かうの途上、千歳村大字烏山字中宿において、自警団の包圍するところとなり、いずれも重・軽傷を負うに至れり。是において本署は、鮮人を保護・収容するの傍ら、署員を是政・関戸・日野等の各渡船場に派遣して形勢を探らしめしが、事実無根なるを知りたれば、直にこれを民衆に伝

えたれども、疑惑は容易に去らず。

3日に及びては、鮮人に対する迫害一層猛烈を加え、これを使用せる工場または土木請負業者等を襲撃するに至れるを以って、陸軍と交渉して憲兵10名の派遣を求め、協力してこれを鎮撫(ちんぶ)し、以ってこれらの危難を救いたり、騒擾(そうじょう)は依然としてやまず、6日には、鮮人数十名、立川村を侵し、自警団と闘争を開けりと言ひ、さらに長沼・多摩の両村においても暴行を逞しうせり等の流言あり。

而して、この前後における自警団その他の取締を励行せるを以って、日を経るに従ひ、漸次平穩に帰せり。

警視庁 1925『大正大震災火災誌』第六十一章府中警察署より

読みやすいようにカタカナをひらがなに・漢字を現代のものに変換しました。

世田谷町で起きた事件（殺人）

東京府下荏原郡世田ヶ谷方面に於ては、九月二日不逞鮮人が大震災に乗じて暴動を起し、玉川方面から襲来するとの流言が宣伝された結果、之を誤信した被告人は、附近の住民と共に自警団を組織して警戒を開始した。

然るに同日午後五時頃世田ヶ谷警察署詰巡查渡邊某が、品川方面から同警察署へ護送すべく、鮮人二名を連行して世田ヶ谷町に差掛るや、同所に警戒中の約四十名の群衆は、右鮮人を不逞鮮人の一味と速断して之を殺害せんとし、矢庭に棍棒(こんぼう)其他の兇器を振つて該鮮人を殴打し始めた。斯くて被告人も亦、右鮮人を不逞鮮人の一味と誤解し、右群衆と共に之を殺害せんと欲し、所持の猟銃を以て右鮮人一名の頭を撃つて殺害した。

吉河光貞 1949『関東大震災の治安回顧』法務府特別審査局より

読みやすいようにカタカナをひらがなに・漢字を現代のものに変換しました。

平和な状態を生み、平和文化を地域社会に根付かせていくために

報告書には「時代や地域が変わっても、言語、習慣、信条等の相違により異質性が感じられる人間集団はいかなる社会にも常に存在しており、そのような集団が標的となり得る」との教訓が示されています。

普段からの相互理解と、コミュニティとの関わりをつくることで、混沌とした状況下にあっても助け合う精神を保ちながら、冷静な判断と行動を取ることができ、その上で、他者の人権や尊厳を大切にすることができるようになります。

世田谷区長メッセージ

関東大震災から100年の節目を迎えるにあたり

M7.9の巨大地震は、十万人を越す死者行方不明者を出しました。

災害の犠牲になられた方々の心情を思うと、悲しみに胸が締め付けられる思いがします。

また、その混乱の中で流言蜚語(デマ)が流布され、当時の自警団による朝鮮半島出身者等を狙った襲撃や撲殺事件等が起きたことも忘れないでいたいと思います。

関東大震災という大きな災害を通じて、命と人権の尊さに思いを馳せ、犠牲となられた方々に心からの追悼を捧げるとともに、すべての区民の尊厳に配慮した災害対策の更なる強化に取り組んでまいります。

2023年9月1日 世田谷区長 保坂 展人